

学 位 論 文 要 旨

氏 名 佐々木 幸

題 目 多民族・多文化国家シンガポールの美術教育カリキュラムに関する研究
——民族文化と国民文化を通したアイデンティティ形成と創造性育成——

学位論文要旨（和文2,000字又は英文1,000語程度）

本研究は、東南アジアの中でも特徴的な多民族・多文化社会をもつシンガポールの美術教育を取り上げ、そのカリキュラムの史的展開をたどりながら、民族文化と国民文化を通したアイデンティティ形成と創造性育成という機能を考察するものである。

シンガポールの美術教育は、民族の造形文化をカリキュラムに取り入れることで、民族的なアイデンティティ形成に関与してきた。同時に、民族を統合する国民的な文化や国民的なアイデンティティの形成も図られてきたが、その実現は容易ではなかった。

他方、創造性育成は美術教育の一貫したテーマであったが、その内実は、社会や産業の発展過程によって様々に解釈されてきた。特に、1990年代後半からは、芸術文化産業立国を目指した国家的プロジェクトが推進され、知識基盤社会における資質として注目されている。

芸術文化を通した創造都市を目指す今日のシンガポールにおいては、国民的なアイデンティティと創造性は、かつてないほどに近いものになっており、両者の育成を目指す美術教育の役割は一層高まっている。

本研究はこのようなシンガポールの美術教育の特徴的な機能を明らかにするため、以下の研究目的を設定した。

- ①民族と国民という二つの文化的アイデンティティ形成のための教育内容が、どのように教材化されカリキュラム化されたのか、その背景と方法論を明らかにする。
- ②美術教育を通して育成すべき創造性がどのように解釈され、カリキュラムの改訂に伴って変化してきたのかを明らかにする。
- ③1990年代後半以降の文化・教育政策の大きな転換の中で、民族文化を包括的に統合する新たな文化的アイデンティティの創出に、美術教育がどのように関与してきたかを明らかにする。

上記の研究目的に対し、第Ⅰ章から第Ⅶ章までに次のようなテーマを論じてきた。第Ⅰ章では、今日の美術教育における文化的アイデンティティの形成と創造性育成の位置づけを論じた。第Ⅱ章

では、シンガポールの社会と文化、教育と文化的アイデンティティとの関連を論じた。第Ⅲ章では、シンガポールの美術教育のカリキュラム上の特徴を確かめ、その変遷過程におけるアイデンティティ形成と創造性育成について論じた。第Ⅳ章では、シンガポールの近現代美術の展開をたどり、美術表現におけるアイデンティティの問題を論じた。

第Ⅴ章では、1980年代から1990年代前半に民族文化がカリキュラム化され、教科書題材となり、自国の美術が国民文化としてオーソライズされていく過程を論じた。続く第Ⅵ章では、1990年代後半からの知識基盤社会を目指す教育改革の中で美術教育が大きく転換し、国民的なアイデンティティの形成に創造性育成が関与していく状況を論じた。

そして第Ⅶ章では、今世紀の芸術文化振興政策を、芸術文化を通した国づくり、すなわちネイション・ビルディングととらえ、その資質となる創造性を社会的創造性という観点から考察し、美術教育における創造性育成が、新しい国民的なアイデンティティ形成を導く過程を論じた。

これらを踏まえ、第Ⅷ章では、三つの研究目的に対する結論を次のように導いた。

①自治州時代に民族共通のカリキュラムが示されて以来、民族的なアイデンティティ形成と、他民族の文化理解のために、民族文化が教育内容に取り入れられてきた。その手法は、既存の美術文化を直接的に採用したり、民族の事物や象徴をモチーフやテーマとして採用したりするものであった。1980年代から1990年代には、初めて刊行された教科書を通して民族文化の題材が視覚的に示され、地元作家たちの作品が「自国の美術」としてオーソライズされていった。

1990年代後半からの教育では、新しい国民教育、芸術文化振興政策、現代美術の台頭、さらに知識基盤経済への対応を背景とした教育改革によって、美術教育は視覚リテラシー育成を重視する方向へ変化した。民族文化の役割は縮小したが、かわりに現代的な芸術文化をもとにした国民的な文化とアイデンティティの創出を試みる新たな方法がとられている。

②人間形成論に基づく創造性の解釈は今日まで続いているが、これと並行して、それぞれの時代の産業構造や社会的課題を反映して創造性が解釈されていた。輸入代替型産業から輸出志向型を経て、現代では知識基盤経済に対応した21世紀コンピテンシーとしての創造性が求められており、芸術文化産業立国を担う資質として育成が期待されている。

③今日、民族文化は社会の安定を維持するための「文化的な錘」として位置付けられている。この錘の上に、過去の文化的な実績と、新しい文化創造をめざした活動が展開している。シンガポールの美術教育は、芸術文化振興政策とともに、芸術文化を通した国民的なアイデンティティの創出と新世紀の国づくりに深く関与し、その資質として「社会的創造性」の育成が目指されている。

これらの考察を通して、自治州時代から今日に至るシンガポールの美術教育における特徴的な機能とカリキュラムの史的展開が明らかになった。